

鳥取県沿岸に多数漂着したヤリマンボウ属（予報）と その他の漂着動物（2000年4月～2002年3月）

川 上 靖*

鳥取県立博物館学芸課自然係（〒680-0011 鳥取市東町2-124）

Records of the sharptail sunfish of the genus *Masturus*, and other marine animals stranded on the coast of Tottori Prefecture, Honshu, Japan from April 2000 to March 2002

Yasushi KAWAKAMI*

Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan

Abstract Six specimens of sharptail sunfish of the genus *Masturus* were stranded on the coast of Tottori Prefecture, Honshu, Japan, in two weeks of January 2002. The sharptail sunfish has been rarely recorded in the waters around Japan. The six records of sharptail sunfish in Tottori Prefecture are outstanding in terms of many specimens stranded in relatively short periods. The morphological characters of these stranded specimens are given in this paper with notes on other marine animals stranded on the coast of Tottori Prefecture.

2002年1月中旬に鳥取県のほぼ全域の海岸において、ヤリマンボウ属 *Masturus* Gill, 1884に属する個体が多数漂着した。このようなヤリマンボウ属の個体のまとまった漂着は、他に例がなく、非常に貴重な記録になると思われるので報告する。

マンボウ科 Molidae には、マンボウ属 *Mola* に2種、ヤリマンボウ属に2種、クサビフグ属 *Ranzania* に1種が知られている (Fraser-Brunner, 1951)。しかしながら、ヤリマンボウ属のヤリマンボウ *Masturus lanceolatus* (Lienard, 1840) とトンガリヤリマンボウ *Matsurus oxyuropterus* (Bleeker, 1873) については、標本がなかなか採集されないため、これらは本当に2種なのか、あるいは同一種なのか、分類学的に未解決のままである (Fraser-Brunner, 1951; 松浦, 1988)。また、生態についてもほとんど何もわかっていない。

したがって、今回の鳥取県に漂着したヤリマンボウ属の個体は、学術的にも貴重であるので、可能な限り計測データを取り、DNA分析用として筋肉や内臓組織を採取した。さらに、1月11日岩美郡岩美町陸上に漂着した1個体は、剥製にして鳥取県立博物館に保存することにした。なお、分類学的検討等については、形態およびDNAデータの両面から、現在、国立科学博物館動物第二研究

*E-mail: kawakamiy@pref.tottori.jp

表. 鳥取県沿岸に漂着した動物 (2000年4月～2002年3月)

種 類	個体数	場 所	サイズ	発見日	備 考
ゴマフアザラシ (子)	1	【漂着・保護】東伯郡大栄町大谷 (海岸)	体長約80cm	2000年4月6日	衰弱した状態で保護。県動物臨床医学研究所 (倉吉市) で治療を受け回復後、4月28日にしまね海洋館「アクアス」(島根県) に引き取られた。
カマイルカ	1	【漂着】岩美郡岩美町東浜 (海岸)	体重11.2kg	2000年4月24日	腐敗激しい。約1ヶ月前に漂着し、埋めていたものが再発見された可能性あり。
ミンククジラ	1	【漂着】東伯郡東伯町八橋 (海岸)	体長190cm	2000年7月9日	腐敗激しい。
シムククザメ科のサメ	2	【確認】岩美郡福部村湯山	不明	2000年8月25日	泳いでいるところを確認。
ギンカククラゲ	多数	砂丘第二海水浴場沖約70m	直径3～4cm	2000年9月27～29日	ルリガイと一緒に漂着。
ルリガイ	多数	【漂着】岩美郡福部村岩戸～鳥取市鳥取砂丘 (海岸)	殻高約4cm	2000年9月27～30日	ギンカククラゲと一緒に漂着。
ハリセンボン	多数	【漂着】岩美郡福部村の海岸一帯	体長約15cm前後	2001年2月13～20日	鳥取県東部一帯に大量に漂着。
ゴマフアザラシ (子)	1	【漂着・保護】西伯郡中山町 (御崎漁港)	体重16.3kg	2001年6月15日	右の鰭に傷あり。県動物臨床医学研究所 (倉吉市) で治療を受け、8月7日に「伊豆三津シーパラダイス」(静岡県) に引き取られた。
シムククザメ科のサメ	約20	【確認】鳥取県東部一帯	体長約1.5～3m (推定)	2001年8月5～9日	泳いでいた1匹を水上バイク運転の男性が確認。その後、鳥取県の防災ヘリコプターで調査。各海水浴場が遊泳禁止となる。
アオウミガメ	1	沖合約40m～2km	甲長80cm	2001年11月13日	鳥取県初記録。
ヤリマンボウ属の一種	1	【漂着】鳥取市賀露 (鳥取港)	体長135cm	2002年1月6日	(図1, 2)
ヤリマンボウ属の一種	1	【漂着】東伯郡泊村 (石脇海岸)	体長145cm	2002年1月7日	(図1, 2)
ヤリマンボウ属の一種	1	【漂着】東伯郡東伯町逢束 (加勢蛇川西400m付近)	体長108cm	2002年1月10日	(図1, 2)
ヤリマンボウ属の一種	1	【漂着】鳥取市白兔 (白兔海岸)	体長105cm	2002年1月11日	(図1, 2)
ヤリマンボウ属の一種	1	【漂着】岩美郡岩美町陸上 (陸上海岸)	体長151cm	2002年1月18日	(図1, 2) 腐敗激しい。
ヤリマンボウ属の一種	1	【漂着】鳥取市 (鳥取港ふ頭)	体長152cm	2002年1月20日	(図1, 2)
カマイルカ	1	【漂着】米子市富益町 (弓ヶ浜展望台約100m西)	体長約180cm	2002年1月25日	傷み具合激しい。岩場に打ちつけられたためと思われる。

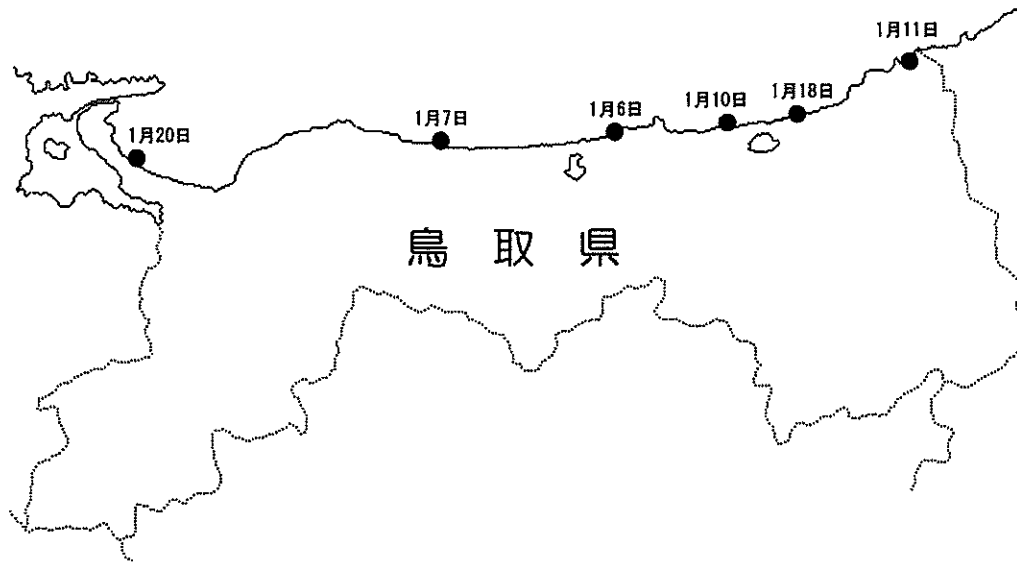


図1. 鳥取県におけるヤリマンボウ属の漂着場所 (2002年1月)

室の松浦啓一室長の研究グループにおいて研究中であるので、本報告では簡単な漂着記録に留める。

また、ヤリマンボウ属の漂着記録とあわせて、2000年4月から2002年3月までの鳥取県における他の海洋動物の漂着記録（ただし、鳥取県立博物館において確認できたもののみ）も報告し、若干の考察を加える。

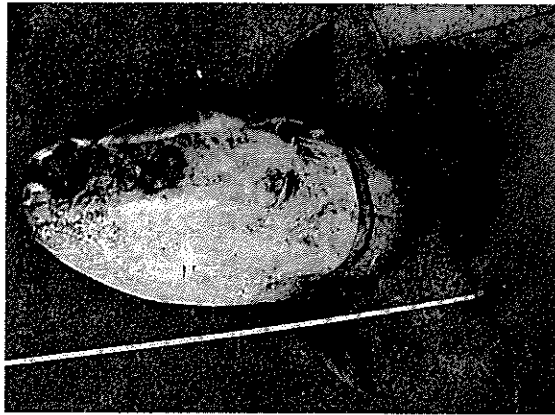
鳥取県の漂着動物（2000年4月～2002年3月）

2000年4月から2002年3月の間に、鳥取県沿岸に漂着した海洋動物を表にまとめた。これらは、県民の方や報道機関から当館に連絡があり、確認できたもののみであり、実際の漂着動物の種類と個体数は相当な数であると思われる。なお、シュモクザメ科のサメ（以下、シュモクザメ）については、漂着ではなく、沿岸での確認ではあるが、近年特異的な例であり、他の漂着動物と関連した要因が考えられそうなので、【確認】として記録に残した。

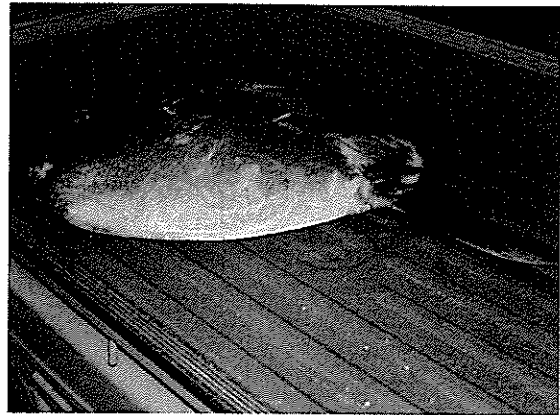
また、ヤリマンボウ属の個体（以下、ヤリマンボウ）の漂着についてのみ、漂着場所を図1に、個体の写真を図2に示した。

考 察

鳥取県に漂着した動物については、清末（1987, 1990）が1954年～1989年の間の漂着動物について、まとまった報告をしている。それ以降については、断片的な報文等（安藤, 1992, 1993a, b; 田村, 1996a, b; 島田, 1998; 窪寺, 2001）がある。これらと比較して、2000年4月から2002年3月の間の漂着動物（表）で特異的なことは、多数のヤリマンボウの漂着、アオウミガメの漂着（鳥取県初記録）、そして多数のシュモクザメの確認である。どれも温帯～熱帯域の海洋動物である。



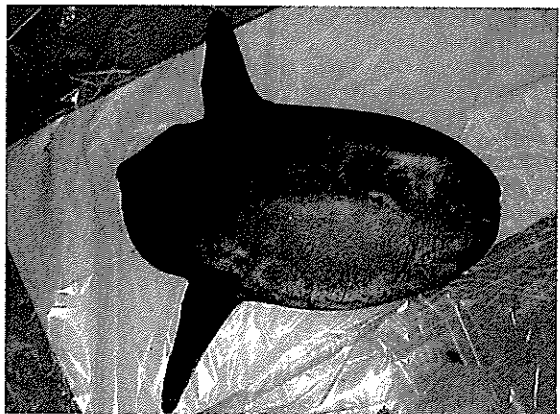
2002年1月6日 東伯郡泊村（石脇海岸）



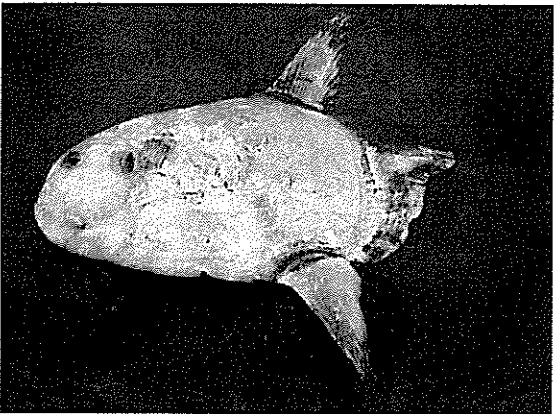
2002年1月7日 東伯郡東伯町逢東



2002年1月10日 鳥取市白兔（白兔海岸）



2002年1月11日 岩美郡岩美町陸上（陸上海岸）



2002年1月18日 鳥取市（鳥取港ふ頭）



2002年1月20日 米子市富益町

図2. 鳥取県に漂着したヤリマンボウ属の個体（2002年1月）

2002年1月に漂着したヤリマンボウは、県内全域で6個体確認されたが(図1)、漁師の方々の話によるとその他にも鳥取県西部において2~3個体、漂着していたらしい。また、ほとんどの個体は発見されたときに非常に弱っていたか、死亡直後であった。これらのことから、2002年1月中旬頃、鳥取県の沿岸にかなりの数のヤリマンボウが来ていたものと思われる。

日本海での冬季における温帯・熱帯の海洋動物の漂着は、次のように考えられている。それは、対馬暖流により日本海に入り込み、冬季の海水温の低下に伴い衰弱し、北西の季節風により打ち寄せられるというものである。ヤリマンボウ、アオウミガメの漂着も基本的にこのような要因によるものと思われる。しかし、夏にはシュモクザメが、冬にはヤリマンボウが多数、沿岸に来ていたことが推測できるという異例の現象は、日本海の何らかの変化を示唆しているかもしれない。例えば、対馬暖流は、何本にも分岐して日本海を流れている(山下, 1995)。そのうち、もっとも鳥取県の沿岸寄りを流れている第1分岐流がさらに沿岸に寄ってきていることも可能性として考えられる。また、鳥取県水産試験場によると、2001~2002年、日本海の海水温は平年より高い状態が続いているらしい。どちらにせよ、これらの動物の多数の漂着等には、様々な要因が複合して影響しているはずであるし、この現象は今年1年限りのものかもしれない。まずは、ヤリマンボウ、アオウミガメ、シュモクザメなどの温帯~熱帯域の海洋動物の漂着等が今後も続くのか、これからも注意深く記録を取り続けていくことが重要であろう。

謝 辞

国立科学博物館動物第二研究室室長の松浦啓一博士には、漂着したヤリマンボウ属の個体のデータの取り方から本報告の原稿の校閲に至るまでご指導いただいた。鳥取県立博物館の安藤重敏、平尾和幸、清末幸久、森本賢一の各氏には、漂着動物の拾得、計測、写真撮影等においてご指導、ご協力いただいた。厚くお礼申し上げます。また、逐一お名前をあげることはしないが、漂着動物を発見し、様々な情報をお寄せいただき、快く資料を提供していただいた多くの方々に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 安藤重敏, 1992. アオイガイとタコブネ. 郷土と博物館通巻74号, 鳥取県立博物館: 27-28.
安藤重敏, 1993a. 海からの珍客たち. 郷土と博物館通巻76号, 鳥取県立博物館: 1-5.
安藤重敏, 1993b. オオギハクジラ全身骨格標本. 郷土と博物館通巻77号, 鳥取県立博物館: 23-24.
Fraser-Brunner, A., 1951. The ocean sunfishes (family Molidae). *Bulletin of the British Museum (Natural History) Zoology*, 1(6): 87-121.
清末忠人, 1987. 鳥取県沿岸の漂着動物について(1). *鳥取生物*, 21: 15-20.
清末忠人, 1990. 鳥取県沿岸の漂着動物について(2). *鳥取生物*, 24: 1-7.
窪寺恒己, 2001. 日本近海産ダイオウイカの分類に関する問題点. *うみうし通信*, 32: 2-5.

- 松浦啓一, 1988. マンボウ科 Molidae, pp. 352. In: 日本産魚類大図鑑第2版. 東海大学出版会 (東京), 466pp.
- 島田章則・巖城 隆・安藤重敏, 1998. 鳥取県鳥取砂丘海岸に漂着したコマッコウ *Kogia breviceps*. 鳥取県立博物館研究報告, 35: 19-34.
- 田村昭夫, 1996a. ヤリマンボウより得られた寄生虫. 郷土と博物館通巻82号, 鳥取県立博物館: 27-28.
- 田村昭夫, 1996b. 日本海に生息する大型動物の剥製. 郷土と博物館通巻83号, 鳥取県立博物館: 21-22.
- 山下 郁, 1995. 日本海におけるウミガメ類の来游について. 富山大学教育学部地理学教室年報, 3: 155-173.